2020 年 4 月 29 日

# 西洋近代美術にみる神話の世界

**フレデリック・レイトン《月桂冠を編む》1872 年、油彩・カンヴァス**

**リヴァプール国立美術館　ウォーカー・アート・ギャラリー　Courtesy National Museums Liverpool**

## 展覧会基本情報

会期：2020 年 5 月 30 日（土）～7 月 12 日（日）44 日間　会期中無休

時間：9:00～17:00（入場は 16:30 まで）

観覧料：一般前売 960 円・一般 1,200 円（960 円）・大学生 850 円（680 円）・高校生以下は無料

※（　）内は 20 名以上の団体割引料金。※年間観覧券所持者は無料。※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳及び被爆者健康手帳所持者とその介護者（1 名）、高知県及び高知市の長寿手帳所持者は無料。

主催：高知県立美術館、KUTV テレビ高知

後援：高知県教育委員会、高知市教育委員会、高知新聞社、NHK 高知放送局、KCB 高知ケーブルテレビ、エフエム高知、高知シティ FM 放送

企画協力：株式会社アルティス

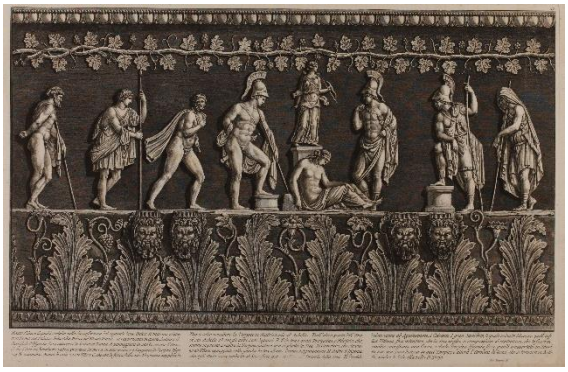
お問合せ先：高知県立美術館　学芸課　柳澤宏美／奥野克仁
〒781-8123 高知県高知市高須 353-2　tel 088-866-8000 / fax 088-866-8008
hiromi_yanagisawa@kochi-bunkazaidan.or.jp

**展覧会概要**　田園にたたずむ女神、戦場で戦う英雄、水浴するニンフなどが登場するギリシャ・ローマ神話は、古代から芸術作品の主題となってきました。神話は時代ごとに解釈を加えられながら、神に捧げるため、あるいは教養を示すため、美術のなかでさまざまに表されています。18世紀になると古代遺跡の発掘も進み、考古学的関心に基づきながら同時代の趣向を反映した古代のイメージが描かれるようになります。19世紀以降も神話と古代の文化は象徴主義や印象派の作家たちにインスピレーションを与えました。本展では、古代遺跡に魅了されたピラネージから神話の物語を題材に作品を描いたヴィクトリア朝の画家たち、豊かな自然のなかに女神を思わせる裸婦を描いたルノワール、神話上の怪物を登場させたピカソまで、18世紀から20世紀の作家34名による作品を紹介します。幻想的な版画、優美な古典世界、穏やかな田園風景など、古代から脈々と受け継がれてきた物語の系譜をお楽しみください。

## 構成

### 序章　古なるものへの憧れ

ギリシャ・ローマ神話を主題とする作品は、古代美術の影響を受けながら理想美を描き出そうとしてきました。16世紀頃から行われていた古代遺跡の発掘調査は、18世紀から19世紀に左官になり、古代の社会と芸術に関する知識が浸透していきます。建築家であり、考古学者でもあった版画家ピラネージは、考古学の知識、優れたデッサン力と銅版画技術、そして想像力を駆使して古代ローマの遺跡や遺物の版画集を出版します。その作品は同時代の作家だけでなく後世にまで大きな影響を与えました。序章ではピラネージの作品とともに、古代ギリシャ、ローマ美術の作例をご紹介します。



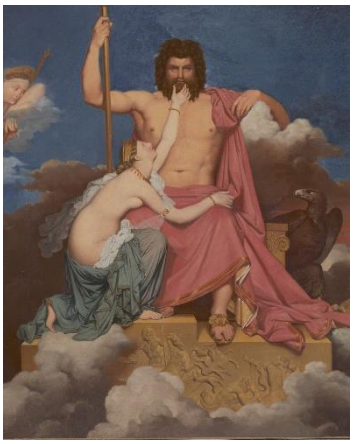
ジョヴァンニ=バッティスタ・ピラネージ《同じ壺の浅浮き彫り部分》(『古代の壺、燭台、石碑、石棺、三脚台、ランプそして古代の装飾』より）1778 年刊行、エッチング・紙、町田市立国際版画美術館

### 第１章　甘美なる夢の古代

18、19世紀は、美術史や思想史の分野でも古代ギリシャの精神と美術の再評価・研究が進み、古代ギリシャが重要な規範となる一方で、芸術家たちは知識をもとに建築や衣裳などの細部を描きつつ、古代の情景を想像力豊かに演出しました。ギリシャの壺絵を思わせる簡潔な線で優雅に神話の世界を表現したフラクスマン、夢見るような表情の女性像を描いたヴィクトリア朝時代の画家たち、幻想とユーモアが入り混じった独自の神話の再解釈を行ったクリンガーなど甘美な古代のイメージをお楽しみください。

ローレンス・アルマ=タデマ《お気に入りの詩人》1888 年、油彩・パネル、リヴァプール国立美術館　レディ・リーヴァー・アート・ギャラリー Courtesy National Museums Liverpool, Lady Lever Art Gallery

お問合せ先：高知県立美術館　学芸課　柳澤宏美／奥野克仁
〒781-8123 高知県高知市高須 353-2　tel 088-866-8000 / fax 088-866-8008
hiromi_yanagisawa@kochi-bunkazaidan.or.jp



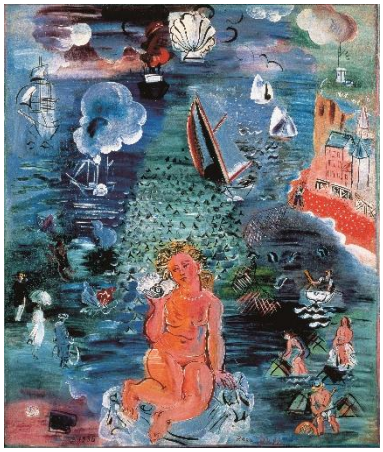
ジャン=オーギュスト・ドミニク・アングル
《ユピテルとテティス》1807-25 年頃、油彩・カンヴァス、
東京富士美術館

## 第 2 章　伝統から幻想へ

17世紀に設立されたフランスの美術アカデミーでは、古代とルネサンスを規範とする制度のもと美術教育を行っていました。この制度のもと学んだアングルはイタリアに学び、古典性と独自の美意識を反映した作風で同時代の賞賛を得ただけでなく、20世紀の前衛作家にも影響を与えています。一方、神話が持つ神秘的な雰囲気は新しい表現の着想源となりました。古典性を反映したアングルから同時代の象徴主義的な文学や音楽の影響を受けて神話の登場人物を暗示的に描いたルドン、古代彫刻を愛好したロダンらによる作品をご覧ください。

## 第 3 章 楽園の記憶

古代ギリシャの詩人テオクリトスの『牧歌』を元祖とする田園詩の伝統は、古くから都市の住人が自然と調和した理想的な生活に憧れを抱いていたことを示しています。啓蒙主義の時代には、人間性回復のための自然回帰論が人気を集め、19世紀以降、急速に近代化された都市生活のなかでは、自然への郷愁が人々の心に芽生え、古代の牧歌世界が芸術の霊感源となりました。都市化したパリで活躍した印象派の画家たちも田園に理想を求め、ルノワールは泉で水浴をする女性の姿をヴィーナスやニンフに重ね合わせました。その他デュフィ、ローランサンらが描いた神話主題の作品からは詩的で自由な発想をみることができます。



ラウル・デュフィ《アンフィトリテ（海の女神）》1936 年、
油彩・カンヴァス、伊丹市立美術館

## 第 4 章　象徴と精神世界

第一次世界大戦という災厄を経験したヨーロッパでは、次の大戦の足音が聞こえる1930年代後半にかけて、人々は精神の源泉である古典古代によりどころを求めました。この時期は前衛美術運動が次々と展開した後、そこに参加した作家たちが新しい表現を模索していた時期でもありました。不安定な時代のなかで、作家たちは各自の手法で古代の精神を継承することを試みます。古代の建築や彫刻をモティーフにした作品群をつくったイタリアのジョルジオ・デ・キリコ、神話に登場する怪物・ミノタウロスを人間の獣性の象徴として、そして自らの分身として用いたピカソ、少年時代から愛読したホメロス『オデュッセイア』などから着想を得て、独特の幻想的な女性像を描いたベルギーのデルヴォーらの作品をご紹介します。

お問合せ先：高知県立美術館　学芸課　柳澤宏美／奥野克仁
〒781-8123 高知県高知市高須 353-2　tel 088-866-8000 / fax 088-866-8008
hiromi_yanagisawa@kochi-bunkazaidan.or.jp

## 本展の見どころ

① イギリス、リヴァプール国立美術館所蔵の作品 2 点を含む約 60 点を紹介
② 西洋美術の基盤のひとつである神話の系譜を紹介
③ レイトン、アルマ=タデマ、アングル、ロダン、ルノワール、デュフィ、ピカソなど 18 世紀から 20 世紀の多彩な作家たちによる作品を展覧

**出品作家**　ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ、ジョン・フラクスマン、フレデリック・レイトン、エドワード・コーリー・バーン=ジョーンズ、ローレンス・アルマ=タデマ、エドワード・ジョン・ポインター、ジョン・ウィリアム・ウォーターハウス、チャールズ・リケッツ、マックス・クリンガー、ジャン=オーギュスト・ドミニク・アングル、イアサント・オーブリー=ルコント（原画ジロデ=トリオゾン）、ジャン・バティスト・カミーユ・コロー、ナルシス=ヴィルジル・ディアズ・ド・ラ・ペーニャ、オノレ・ドーミエ、ジャン=フランソワ・ミレー、アレクサンドル・カバネル、ジャン＝ジャック・エンネル、エマニュエル・ベンネル、アンリ・ファンタン＝ラトゥール、オディロン・ルドン、オーギュスト・ロダン、ラファエル・コラン、エミール=アントワーヌ・ブールデル、ピエール=オーギュスト・ルノワール、ケル=グザヴィエ・ルーセル、コンスタンティン・ブランクーシ、ラウル・デュフィ、マリー・ローランサン、マルク・シャガール、フランシス・ピカビア、パブロ・ピカソ、ジョルジオ・デ・キリコ、ポール・デルヴォー、ロベルト・マッタ・エチャウレン

**出品作品**　油彩／27 点、版画／23 点（16 シリーズを含む）、立体／8 点

## 関連企画

※チラシに掲載のスペシャル・ギャラリー・トーク、コンサートは新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止になりました。また他のイベントについても今後変更の可能性があります。

関連映画上映会　ベルリン・オリンピック記録映画「オリンピア」
数ある近代オリンピックの記録映画のなかから、リーフェンシュタール監督によるベルリン大会（1936 年）の記録映画を上映します。古代ギリシャの競技会を起源にするオリンピック。アスリートの彫琢された肉体や撮影された場面のスペクトルからは古代ギリシャ精神の継承が感じられます。後世に大きな影響を与えたスポーツ映画の最高峰をご堪能ください。

監督：レニ・リーフェンシュタール
日時：6 月 14 日（日）10：30～　第一部：民族の祭典　13：30～　第二部：美の祭典（開場は 30 分前）
場所：高知県立美術館ホール
入場料：500 円（当日券のみ、予約不要、第 1 部・第 2 部共通）

お問合せ先：高知県立美術館　学芸課　柳澤宏美／奥野克仁
〒781-8123 高知県高知市高須 353-2　tel 088-866-8000 / fax 088-866-8008
hiromi_yanagisawa@kochi-bunkazaidan.or.jp

高知県立美術館×みらい科学館
プラネタリウムでギリシャ神話のお話

ギリシャ神話には星座や惑星の名前になったお話しもたくさんあります。星空解説員が出品作品に関連する星座のお話をします。

日時：6 月 24 日（水）18：00～19：00
場所：高知みらい科学館プラネタリウム
定員：40 名　※先着順、参加無料
※6 月 23 日（火）までにお電話（088-866-8000）にてお申し込みください。

サタデーレクチャー①「マックス・クリンガーと神話」
講師：奥野克仁（本展担当学芸員）
日時：6 月 6 日（土）　14：00～15：00
場所：1 階 講義室
定員：先着 50 名　※聴講無料、事前申込不要

サタデーレクチャー②「描かれた神話世界ーイギリスを中心に」
講師：柳澤宏美（本展担当学芸員）
日時：6 月 27 日（土）　14：00～15：00
場所：1 階 講義室
定員：先着 50 名　※聴講無料、事前申込不要

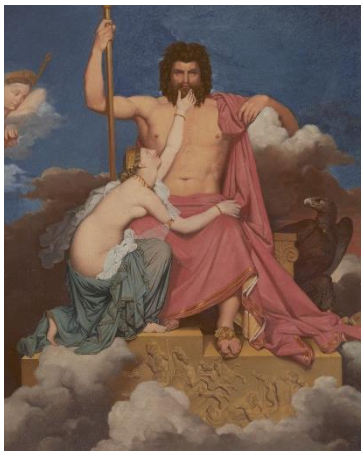
お問合せ先：高知県立美術館　学芸課　柳澤宏美／奥野克仁
〒781-8123 高知県高知市高須 353-2　tel 088-866-8000 / fax 088-866-8008
hiromi_yanagisawa@kochi-bunkazaidan.or.jp

【図版】　展覧会広報用に作品画像データを貸出いたします。

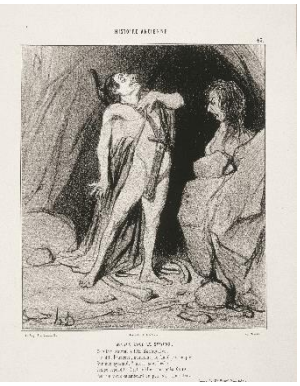
1 フレデリック・レイトン《月桂冠を編む》1872 年、油彩・カンヴァス、リヴァプール国立美術館　ウォーカー・アート・ギャラリー

2 ローレンス・アルマ=タデマ《お気に入りの詩人》1888 年、油彩・パネル、リヴァプール国立美術館　レディ・リーヴァー・アート・ギャラリー

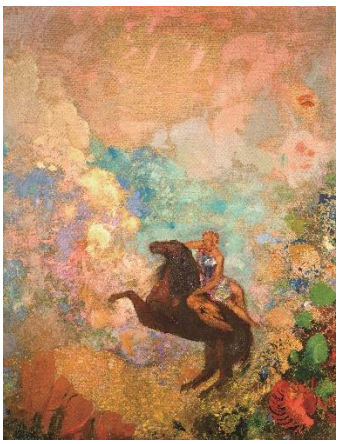
3 ジョン・フラクスマン《アキレウスの名誉を救うよう懇願するテティス》（『ホメロスの「イリアス」』より）1793 年（1795 年刊行）、ラインエングレーヴィング・紙、郡山市立美術館



4 ジャン=オーギュスト・ドミニク・アングル《ユピテルとテティス》1807-25 年頃、油彩・カンヴァス、東京富士美術館



5 オノレ・ドーミエ《オイディプスとスフィンクス》（『古代史』より）1841-43 年、リトグラフ・紙、伊丹市立美術館



6 オディロン・ルドン《ペガサスにのるミューズ》1907-10 年、油彩・カンヴァス、群馬県立近代美術館

【掲載についてのお願い】
・掲載時には、正式な展覧会名と会期の表記をお願いいたします。
・作品画像の掲載時には、キャプションとクレジットの明記をお願いします。
・掲載記事や VTR は展覧会開催の資料として保存しますので、若干部ご恵与ください。
・取材や収録などは、必ず事前にお問い合わせください。都合によりご希望に添えない場合もあります。

お問合せ先：高知県立美術館　学芸課　柳澤宏美／奥野克仁
〒781-8123 高知県高知市高須 353-2　tel 088-866-8000 / fax 088-866-8008
hiromi_yanagisawa@kochi-bunkazaidan.or.jp